

5-3. 自治会アンケート

5-3-1. 自治会アンケートの実施内容

(1)自治会アンケートの実施

自治会の責任者（自治会長等）が一堂に会する定例会の場で、アンケートの趣旨を説明し、それぞれの自治会区内の公共交通の実態や要望についてご記入頂いた。

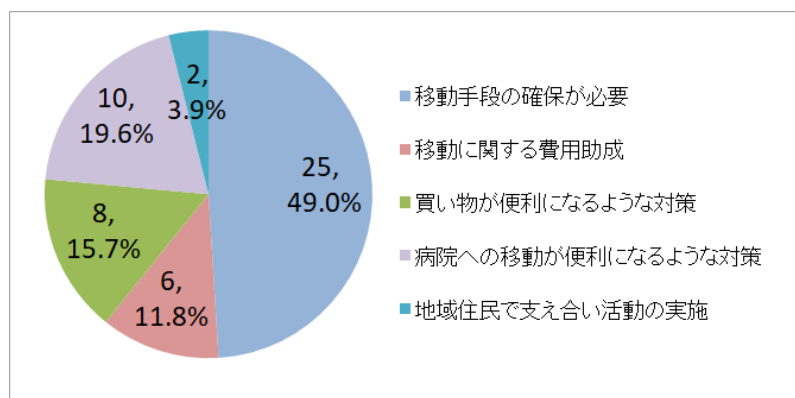
実施期間	令和3年1月21日
調査目的	各行政区の公共交通の実態及び要望やご意見など
調査対象	区長会：全34区
実施方法	定例で行われる区長会でアンケート用紙を配布
回収	全34自治会の26区からの回答を得た

(2)自治会アンケート

①高齢者の免許返納後の対策について

自治会で今後求められる対策として、最も多かったのは「移動手段の確保が必要」が25件で全体に占める割合は49.0%、次いで「病院への移動が便利になるような対策」が10件（同比19.6%）で、「買い物が便利になるような対策」が8件（同比15.7%）となった。また、回答を得られた26の自治会のうち、「移動手段の確保が必要」と答えた25件は、全体の96.2%となった。

図 5-4-1. 自治会別）今後求められる対策（複数回答 N=51）



（設問項目の例示）

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 移動手段の確保が必要 | （例：コミュニティバスやデマンドバスなど） |
| 2. 移動に関する費用助成 | （例：タクシー運賃助成など） |
| 3. 買い物が便利になるような対策 | （例：商業店舗による送迎または移動店舗など） |
| 4. 病院への移動が便利になるような対策 | （例：医療機関による送迎など） |
| 5. 地域住民で支え合い活動の実施 | （例：地域で相乗りして移動するなど） |

表 5-4-1. 自治会別）今後対策が求められること（2つまで選択）

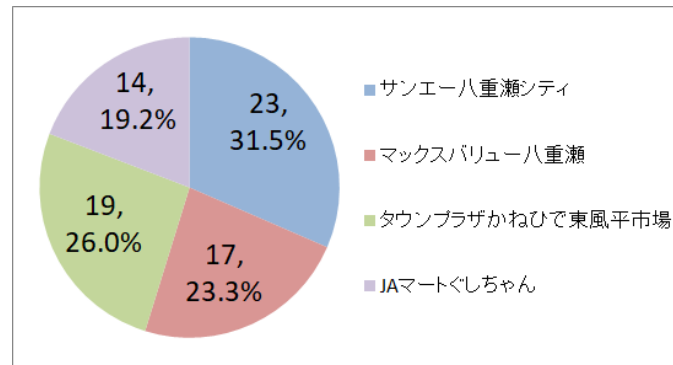
自治会名		移動手段の 確保対策	移動への 費用助成	買い物への 移動対策	病院への 移動対策	地域で支え 合い活動
1	外間	○		○		
2	宜次	○		○		
3	友寄	○			○	
4	屋宜原					
5	伊覇	○			○	
6	上田原	○	○			
7	東風平	○			○	
8	小城	○			○	
9	志多伯					
10	当銘	○		○		
11	富盛					
12	世名城	○			○	
13	高良	○			○	
14	後原	○			○	
15	新城	○	○			
16	具志頭	○	○			
17	長毛	○			○	
18	港川	○	○			
19	大頓	○		○		
20	玻名城					
21	安里					
22	与座	○		○		
23	仲座	○		○		
24	外間高層住宅	○	○			
25	県営外間団地					
26	大倉ハイツ	○				
27	白川ハイツ		○			○
28	友寄東ハイツ	○		○		
29	友寄第一団地	○				○
30	屋宜原団地	○			○	
31	県営屋宜原団地					
32	県営伊覇団地					
33	県営大頓団地	○		○		
34	県営長毛団地	○			○	
計		25	6	8	10	2

②町内施設等を巡回するバスなどの導入の際、特に巡回してほしい施設

1) 買い物等（町内）

巡回バスによる、町内のお買い物先の巡回先として最も多かったのは、「サンエー八重瀬シティ」の20件で全体の30.8%を占め、次いで「タウンプラザかねひで東風平市場」の17件（同比26.2%）となった。（その他の意見として業務スーパー1件）

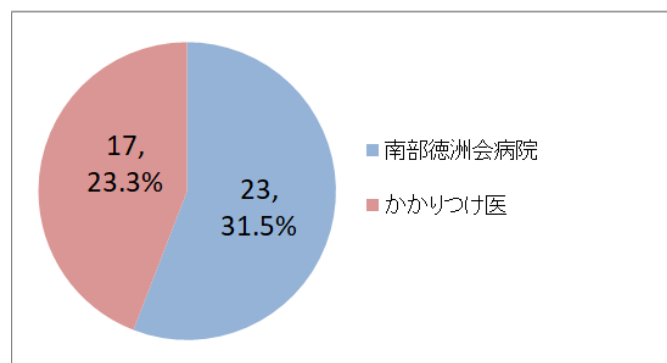
図 5-4-2. 巡回してほしい買い物先



2) 病院等（町内）

病院等の巡回先として最も多かったのは、「南部徳洲会病院」の18件で全体の58.1%を占め、次いで「かかりつけ医院や薬局」の13件（同比41.9%）となった。

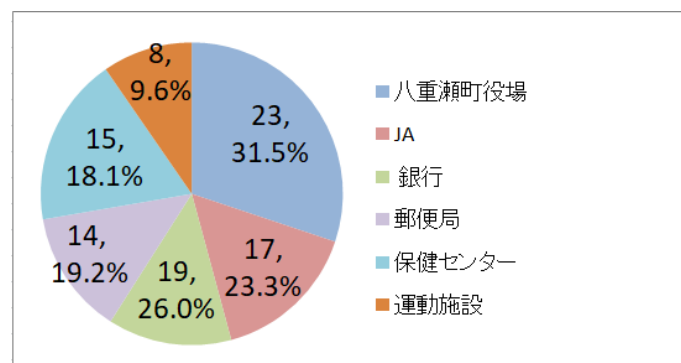
図 5-4-3. 巡回してほしい病院



3) 公共的施設等

巡回先として最も多かったのは「八重瀬町役場」の20件で全体の30.8%で、次いで「銀行」の12件（同比18.5%）、「JA」の16件（同比24.6%）となった。

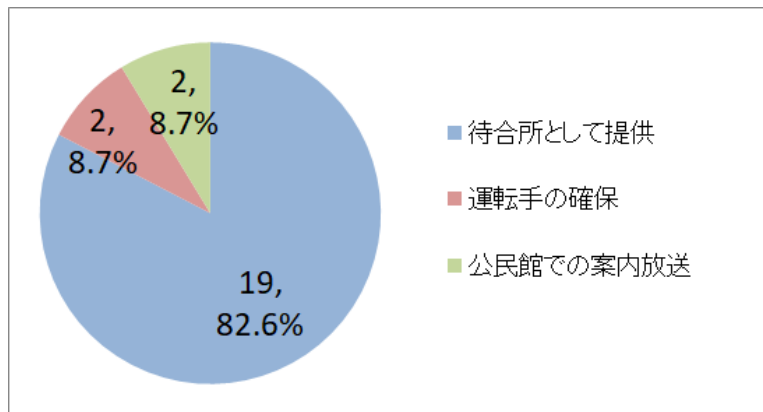
図 5-4-4. 巡回してほしい公共的施設等



③町内を巡回するバスなどの導入の際、地域としてご協力（連携）できること

各自治会で、巡回するバスなどの導入の際に、地域でご協力（連携）できることについて、最も多かったのは公民館を「待合所として提供」が23件で、全体の31.5%となった。次いで、「公民館での案内放送」が19件（同比26.0%）、「運転手の確保」が17件（同比23.3%）となった。また、回答を得られた26の自治会のうち、「待合所として提供」と答えた23件は、全体の88.5%となった。

図 5-4-4. 自治会として協力ができること(複数選択)



自治会別）地域として協力できること（ご意見）

自治会	コメント欄
外間	公民館を待合所として提供できます。
宜次	運転手の確保、待合所として提供はもちろん、公民館放送でのお知らせなど。
友寄	公民館を待合所として活用(是非必要です)
伊覇	公民館を待合所として利用し、その中でコミュニケーションが出来たら良いと思います。
上田原	公民館を待合所として提供可能
東風平	公民館を待合所として提供可能(開館時間8時30分から17時15分)
当銘	公民館を待合所として提供する
世名城	公民館を待合所として提供する。運転手を確保する。ただし、給与は町が負担する。
高良	町で運行してほしい。※予算的にきびしい。
新城	公民館を待合所として提供する。無人自動運転車の実験に協力する。
具志頭	公民館を待合所として提供する。
長毛	長毛地域は70代の方々も各々仕事をしており協力するのは難しい。
港川	シルバー人材センターに運転手の依頼がいいと思う
大頓	待合所の提供、利用促進のための広報等
与座	現在のバス停等を待合所としての利用は。
大倉ハイツ	自治会館を待合所として提供する。
友寄東ハイツ	公民館を待合所として
友寄第一団地	“自治会内で自己完結する体制の構築。事前に行き先や買い物等を確認しておき、週の曜日を決めて送迎や買い出しに行く。
屋宜原団地	集会所を待合所として利用することはできると思う。(但し、集会所内で待つ事はできない。理由は常駐員がいないため)

④自治会による送迎バスを運行について

回答を得られた17件の中で、最も多い傾向として「自治会での運営は難しい」という意見が多い中で、「複数の自治会で連携して実施」や「車両は町で整備し各自治体に貸し出し」または有償ボランティアを自治会で採用」などの意見のほか、「すべて町で運営」などの意見があった。

自治会別）地域として協力できること（ご意見）

自治会	コメント欄
外間	自治会で運行することは難しいです。
宜次	普通免許で運転できる車両であれば、運転手の確保が願ひしやすくなる。車両の整備、燃料、人件費等の負担も町でやってほしい。
伊覇	運転手の給与をどうするか？等の色々な問題はありますが、他自治会との交流が生まれるので良いことだと思います。
上田原	できれば八重瀬独自のウーバーが良い。多数の若者にライン登録してもらい送迎が必要な方は役場へ電話し（役場→ラインへ）、アルバイト方式で可能な方が送迎。互いの時間に無駄がない。
東風平	デマンドバス、乗合タクシーの導入、運行が望ましいと考える。
当銘	運転手や車両の維持管理など長く続けられるか疑問。
世名城	例の通り（車両は町が整備し運行は2～3自治会で連携して実施するなど）
新城	車両は町が維持管理して曜日ごとに各自治会に貸し出す。車両は7名乗り位のコンパクトな方が使いやすい。又は各自治会に軽バス1台づつ提供してほしい。
具志頭	町で運営・運行し自治会より有償ボランティアを運転手として採用する。
長毛	自治会で運行するのは難しいと思う。また、字の財政も厳しいのと長毛自治会への加入率も悪く単独での運行は字としてできない。
港川	南城市のようにマイクロバスの運用がよい。
大頓	事故時の対応について重大事故の場合に不安がある。自治会の負担（金銭等）がどの程度になるか？
与座	運行は3自治会位で連携
大倉ハイツ	自治会員の高齢化で運転手の確保、燃料代の負担などの問題（年間の自治会費の徴収が130万円程度しかない）
友寄東ハイツ	全て町でお願いしたい。
友寄第一団地	例にある「町が整備し運行は2～3自治会が連携して実施」は一案とは思いますが。すべてを行政に頼るのでは財政が破綻する。各コミュニティで出来ることはやる。助け合い絆を深めるためにも、各コミュニティでお互い支え合い助け合う。（現在ある支え合い委員会等の活動を充実させる事で解決する。）
県営長毛団地	自治会での運行は予算的に厳しいと思う。

※ウーバーについて

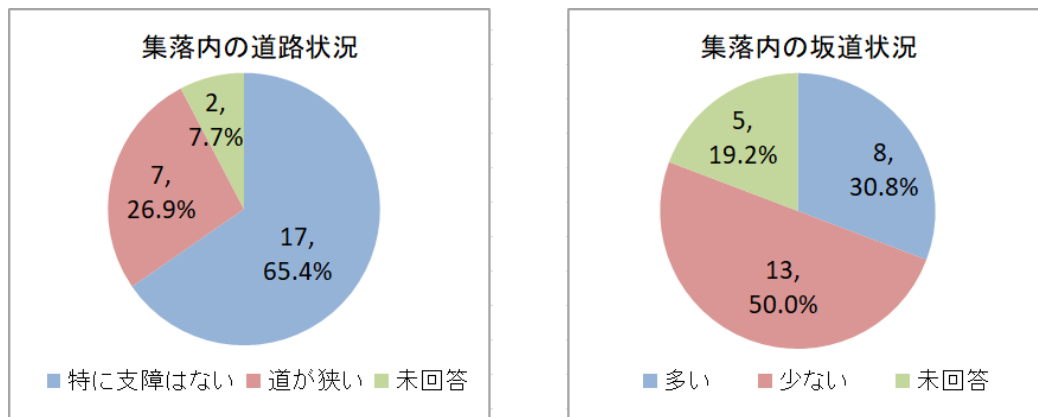
ウーバー（Uber）とは、相乗りサービス（ライドシェア）のことで、移動ニーズをマッチングして、運転手が、相乗りを希望する人を、インターネット（アプリ）を通じて募集し利用する「シェアリングエコノミー」の一つです。日本では、「notteco(のってこ)」、「GO RIDE」、「nori-na(ノリーナ)」、「CREW」などのサービスが各地で提供され始めている。

⑤自治会の地域特性について

1) 各地域の道路状況について

使用される「車両」の大きさなどにもよるが、各地域の道路状況や坂道の状況など、「集落への車両の乗り入れに支障をきたす要因があるか」について聞いたところ、回答を得た26の自治会のなかで、「道路状況について」最も多かったのは「特に支障がない」が17件で全体の65.4%、次いで「道が狭い」が7件（同比26.9%）となった。また、「坂道の状況」では、「坂道は少ない」が13件で、全体の50.0%、次いで「坂道が多い」が8件（同比30.8%）となった。

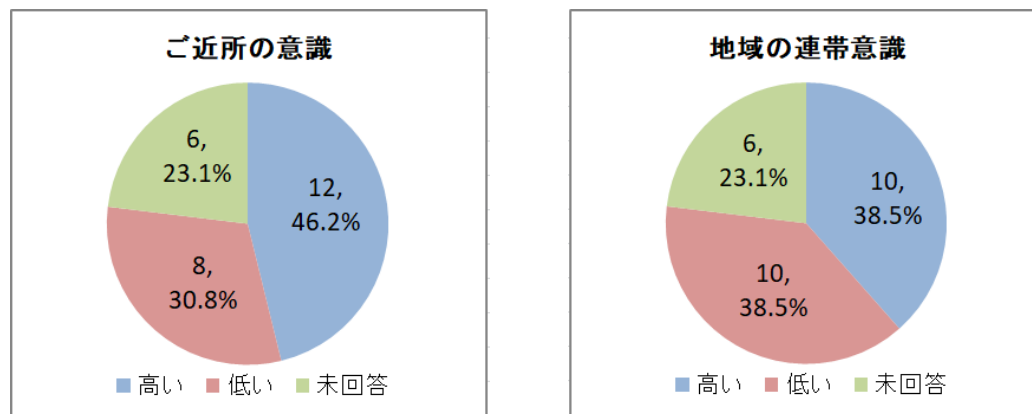
図 5-4-5. 自治会地域の特性について（道路状況）



2) 各地域の連帯意識について

地域とともに連携して運営する可能性を踏まえて、想定される利用者や地域とともに協力関係を図る上で、必要される住民の連帯感について聞いたところ、回答を得た26の自治会のなかで、「ご近所意識について」最も多かったのは「意識が高い」が12件で全体の46.2%、次いで「意識が低い」が8件（同比30.8%）となった。また地域の「連帯意識」では、「意識が高い」と「意識が低い」が同数の10件で全体の38.5%となった。

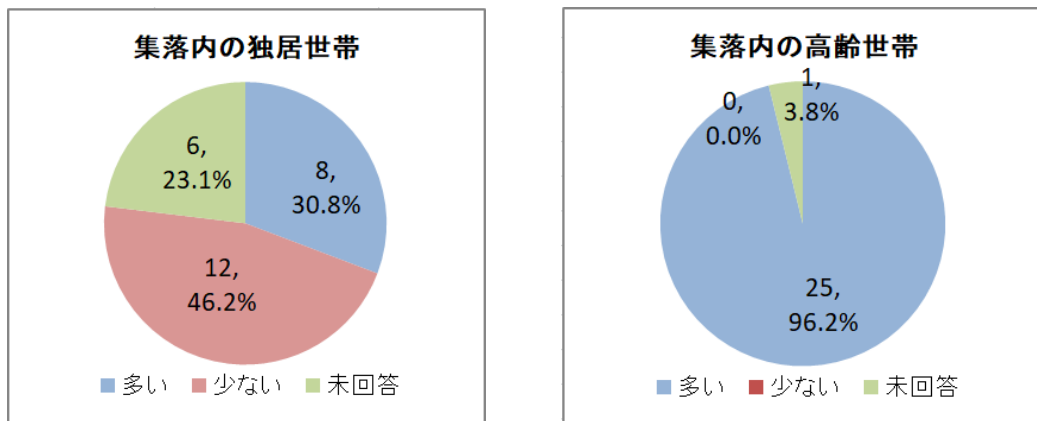
図 5-4-6. 自治会地域の特性について（地域の連帯意識）



3) 各地域の世帯状況について(高齢者世帯の状況)

想定される利用者を主に高齢者とした場合に、各地域において高齢者の世帯がどのような状況にあるかについて聞いたところ、回答を得た26の自治会のなかで、高齢者の「独居世帯」で最も多かったのは「少ない」が12件で全体の46.2%、次いで「多い」が8件（同30.8%）となった。また、「高齢世帯」で最も多かったのは、高齢者世帯が「多い」25件で全体の96.2%となった。

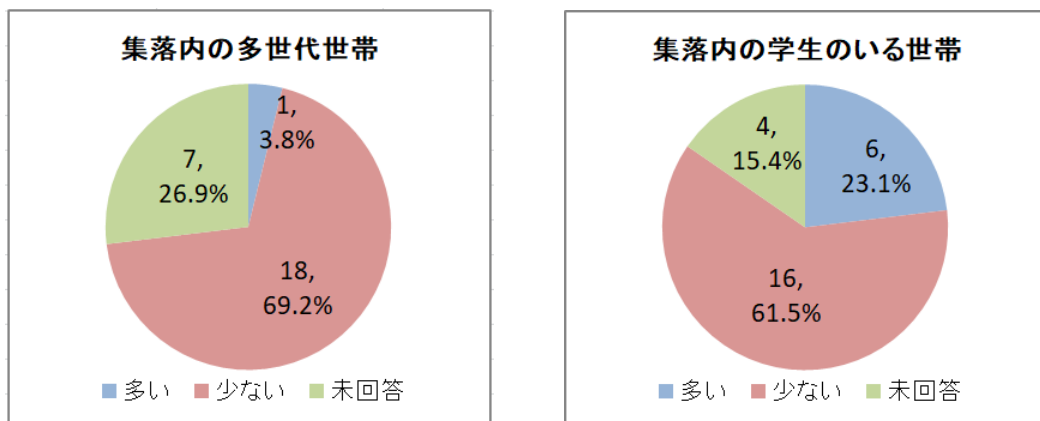
図 5-4-7. 自治会地域の世帯特性について



4) 各地域の世帯状況について(多世代世帯の状況)

想定される利用者の世帯が、各地域においてどのような状況にあるかについて聞いたところ、回答を得た26の自治会のなかで、「多世代世帯」で最も多かったのは「少ない」が18件で全体の69.2%、次いで「未回答（わからない）」が7件（同26.9%）となった。また、「学生のいる世帯」で最も多かったのは、「少ない」16件で全体の61.5%で、次いで「多い」6件（同23.1%）となった。

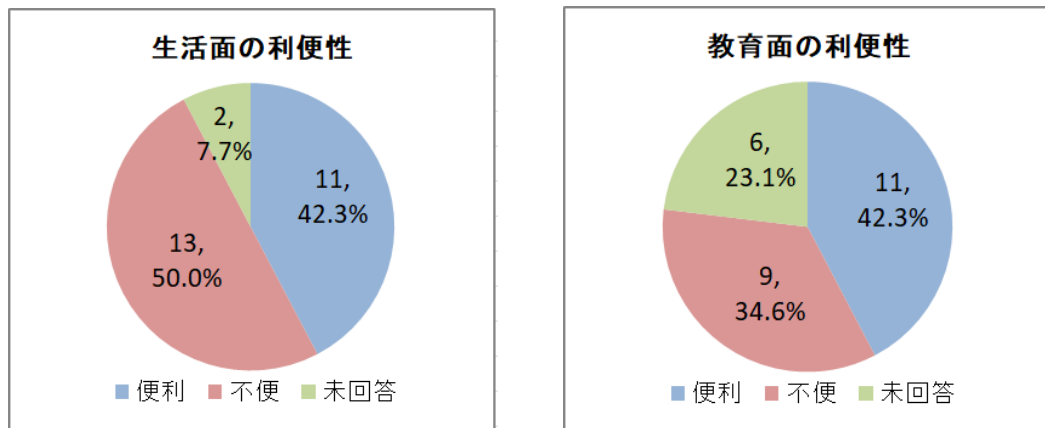
図 5-4-8. 自治会地域の世帯特性について



5) 各地域の生活利便性について（生活面・教育面）

現在、生活する上で「生活面」と「教育面」の利便性について、回答を得た26の自治会のなかで、「生活面の利便性」で最も多かったのは「不便」が13件で全体の50.0%、次いで「便利」11件（同比42.3%）となった。また、「教育面の利便性」で最も多かったのは「便利」11件で全体の42.3%、次いで「不便」9件（同比34.6%）となった。

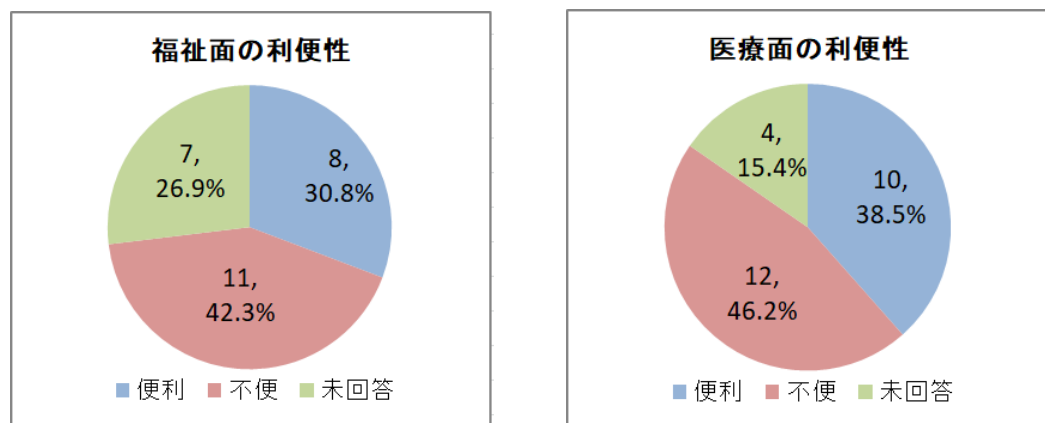
図 5-4-9. 自治会地域の生活利便について（生活面・教育面）



6) 各地域の生活利便性について（福祉面・医療面）

現在、生活する上で「福祉面」と「医療面」の利便性について、回答を得た26の自治会のなかで、「福祉面の利便性」で最も多かったのは「不便」が11件で全体の42.3%、次いで「便利」8件（同比30.8%）となった。また、「医療面」の利便性で最も多かったのが「不便」12件で全体の46.2%、次いで「便利」10件（同比38.5%）となった。

図 5-4-10. 自治会地域の生活利便について（福祉面・医療面）

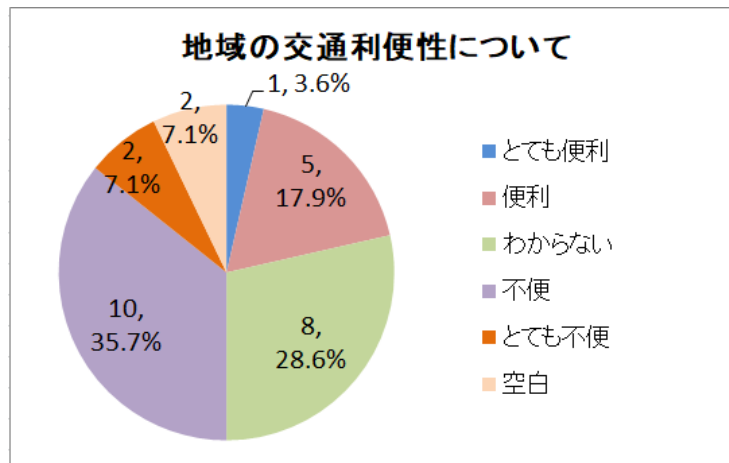


⑥自治会の交通利便性について

各地域の交通利便性について5段階にわけて聞いたところ、回答を得た26件のうち最も多かったのは「不便」が10件で全体の35.7%となった。次いで「わからない」が8件で全体の28.6%、つづいて「便利」が5件で全体の17.9%となった。

「とても便利」または「便利」と答えた地域の傾向として、本町の中心部に位置する地域の回答が多く、「不便」または「とても不便」と答えた地域の傾向としては、中心から郊外へと広がる各地域で見られた。

図 5-4-11. 自治会地域の交通利便性について



□「とても便利、便利」と答えた地域

自治会	コメント欄
外間	交通手段(バス等)を利用するにも、そう遠くでもないし便数も多い
伊覇	スーパーや銀行、病院等が近くにあるので、そしてインター入口が近くにありますので。
上田原	道幅も広く自家用車があると区内なら1～2分で行ける。ただし、お年寄りが多いため歩きなら公民館までも遠い。
東風平	バス路線も2社運行しており、またバス停留所まで一定距離歩きはするが、不便さを感じるまでは無いと思う。
大倉ハイツ	“島尻郡の中央にあたり、那覇、糸満、与那原、高速等に近い(車両所有の場合)
友寄東ハイツ	国道507号沿いで民間のバス停に近い。”

□「不便、とても不便」と答えた地域(1)

自治会	コメント欄
宜次	バス停までの距離が遠い。
小城	路線バスが部落内を運行していない。
世名城	バス停が集落中心部から遠距離にあるので、バス利用者にとっては不便。
高良	沖縄バスが運行していますが、通勤通学時以外の時間帯の本数が少ない。(約1時間に1本)

□「不便、とても不便」と答えた地域(2)

自治会	コメント欄
後原	バス停の設置場所は適切だと思うが、区域内が広いので高齢者にとっては歩いてバス停までいくのは辛いと思われる(地域性)
新城	“幅広の県道が有るにも関わらず地域外の人々は狭い道を通りたがる。
具志頭	夕方になるとレンタカーがスピードを上げて通り過ぎる。”
長毛	バスの便が不便。バス停に屋根がない。
港川	公共バスの本数が少ない。通勤や通学は自家用車の利用者が多く、高齢者にとっては不便である。公共施設や病院などが近くにない。
大頓	道路整備がよくない
与座	住民が分散して居住しており、バス停まで遠い住人が多い。
白川ハイツ	路線バスの便が少ない。高齢者に不便。

□「わからない」と答えた地域

自治会	コメント欄
当銘	お店がないので車がないと大変だと思う。
友寄第一団地	公共交通の便数が少ない。(役場前を通らない)高齢者は自家用車がないと不便。
屋宜原団地	車を利用できない世帯(高齢者)には不便
県営長毛団地	高齢世帯で車を持っていないところが多い。バス停まで遠いと思う。

5-3-2. 自治会からのご意見

自由記述(1)

自治会	コメント欄
外間	高齢者が多くなってきた現在、字区の坂道が、体力が維持出来なくなったとの声が出てきています。公民館が上の方にあるので歩いて来るには大変とのこと。避難場所としては最適ですけど、これから先ミニデイサービスの際は送迎が必要になってくるかも知れません。
宜次	公民館へ向かう公共交通がなく、車がない者は徒歩になっておりかなり不便。バスを利用してもバス停までの距離がかなりあり、全般的に不便。役場、金融機関、買い物に行けるシステムの構築を願います。車を離れた老人世帯の増加。
友寄	“まず、定刻で走らせること。 コミュニティバスは町内の公共交通が不便なところを解決するように走らせたい。”
上田原	免許返納でバス賃が安くなったことは嬉しい。高齢者は家の前で乗りたい。
東風平	高齢者（特に75歳以上）からは、免許返納後の交通手段の確保を案じる方が多いようである。家族が仕事等に対応できないのが要因である。本自治会においては、デマンドバス、乗合タクシーの利用が適していると思われるが、その前に「デマンドバス」、「乗合タクシー」の用途周知が、必要になってくると考えられる。
小城	豊見城と糸満との関係で、路線バスが自治会内を通過しないため役場への訪問が不便。
当銘	買い物、病院等、町民のすべての移動は援助するのは財政上大変かと思います。最初は役場、社協、保健センター等、公共の施設から始めてみてはどうでしょうか。
世名城	世名城は集落内を通るバスがないので、公民館を拠点としたコミュニティバスの運行が望ましい。世名城バス停と東風平三叉路付近のバス停を往復するコミュニティバスで、路線バスの時刻表にあわせて運行する。
高良	バスの時間表の守りが悪いように思われる。
後原	後原区は地域が広く、交通手段は各自で確保しているので、自治会へ苦情を申し出るものはいない。
新城	“免許証を返納したらとても不便。足が痛いのでバス停まで行くのが億劫。タクシーは高くて頼めない。近所のお店が不定期に閉まる。近所のお店の前に目つきの悪い男の人達がいるので遠くのスーパーに行きたいけど、デマンドタクシーがあれば良い。 福祉バス又は福祉タクシーのようなのが欲しい。”
具志頭	コミュニティバスをメインとし、デマンドバス、乗合タクシー、福祉バスも揃えたらどうか？
長毛	高齢者は免許証の返納ができなく困っている人もいる。高齢者が病院等へ行く手段として、家族にお願いすることが多く、その度に仕事を休まなければならない。 通勤・通学には、旧具志頭地域ではバスの運行本数が少なく、那覇近郊に行くには早朝のバスを利用しており、不便であり、若者が郊外に流出しているのが現状である。 東風平までの交通手段があればある程度解消する。 以上のことから南城市のように巡回バスを運行してほしい。”
大頓	要望等、現在はありますが、将来的に高齢化が進みます。その時に住民の生活の為の足は必須ですのでコミュニティバス等の導入が望まれます。また、幹線道路から離れている住民等のため、自治会内にも運行できる体制が必要です。
与座	公共交通の便を増やして欲しい。

自由記述(2)

自治会	コメント欄
大倉ハイツ	現在、買い物等2～3名で津嘉山かねひで八重瀬町マックスバリュなどへ徒歩でかけているようである。南城市のようなコミュニティバス等があればより助かるものと思う。
白川ハイツ	今のところ特にありませんが、1人住い(独居世帯)が多くなりつつある。これらの世帯では病院、買い物は介護士、子供さん(孫や兄弟姉妹)など(週に〇回)が手伝っている。遅かれ早かれ検討しないといけないと思います。今のところ、自治会でバス・タクシー等の予算措置は無理がある。
友寄第一団地	自治区内の移動は自治区内一周600m位なので特に問題はありません。公共バスは利用者が少なくなり便数も減少し不便な面はある。町外への移動は507号線の津嘉山から国場間は渋滞もあるが、高速インターが近く、名護までも一時間で行けるので便利。高齢者の免許返納者に対し公共交通利用の際、割引制度があると良いと思う。 提案 高齢化の進捗に伴い、免許証の返納等が進み高齢者の買い物、通院の足の確保が重要課題であります。国や地方自治体の財政面から、各区・各自治会は自ら出来ることは自己完結出来る体制づくりが求められる。 親子二世代や三世代の同居の場合は、特に問題はないが、大多数の高齢者は自力で買い物や通院などは難しい。 対応策として、買い物や用事等を補佐する者(定年を過ぎ世話役を出来る人)を高齢者の居る100世帯に2名程度指名して(行政が認知する)、買い物や病院への送迎の手助けする制度を確立する。その際、低額の収受(ガソリン代相当)を認めるとともに、行政からも2000円～3000円の手当支給する。(法的課題はありますが)、結果地域の絆が深まり、地方自治体のコスト削減につながる。
県営長毛団地	最近のバス停までの距離が遠い。バスの本数が少ない。